

## 日本全国のライオンズクラブの奉仕活動とは？

ライオンズクラブでは、奉仕活動のことをアクティビティと呼びます。日本のライオンズクラブは1952年の誕生以来、時代のニーズに合ったさまざまなアクティビティを展開してきました。この欄では、日本のライオンズクラブが取り組んできたアクティビティのうち主要なものを紹介します。

### 視力関係アクティビティ

ライオンズクラブ国際協会は、1925年の国際大会でヘレン・ケラーが目の不自由な人々への援助を呼び掛けて以来、視覚障害者福祉や視力保護の活動に重点を置いています。視覚障害者に白い杖を贈る運動は、1930年にアメリカ・イリノイ州のライオンズクラブの提唱で始まり、やがて全世界に広まったものです。

国際協会は1990年から「視力ファースト・失明とたたかうライオンズ」と アイバンク という国際プログラムをスタートさせ、予防かつ回復可能な失明の根絶の 盲導犬 ために世界規模の活動を展開しています。日本ライオンズは資金面で リッチランドの壺 の活動を支えると共に、国内でも1995年から3年間にわたり「日本ライオンズ・アイヘルス・プログラム」を展開。先進国における失明の二大要因である糖尿病性網膜症と緑内障の危険性と検診の必要性を広く知らしめることで、失明の予防に努めました。また、日本ライオンズは、初期の献眼運動や盲導犬普及で先頭に立って活動し、大きく貢献しました。これらの活動には現在も、日本全国のクラブが意欲的に取り組んでいます。

### 保健関係アクティビティ

日本のライオンズクラブは誕生以来、地域の人々の健康のためにさまざまな活動を実施しています。辺地医療や各種検診などの医療奉仕、医療機関への器機の寄贈、市民への啓発活動などを行ってきました。また近年では、失明の要因ともなる糖尿病の危険性に対する認識を深める教育や、小児糖尿病患者のキャンプなども実施しています。献血や腎バンク、骨髄バンクなどの運動にはその発足時から深くかかわって息の長い活動を行っています。特に献血、献眼、献腎は「三献運動」と呼ばれて、全国のライオンズクラブが熱心に取り組んでいます。

### 献血

日本で最初の血液銀行が開設されたのは1952年のことですが、1960年になってもほぼ100%が売血で、日赤の献血はごくわずかなものでした。積極的な採血に乗り出したのは1961年からで、1964年にライシャワー駐日アメリカ大使が暴漢に刺され、輸血の際に血清肝炎を併発したことをき

っかけに献血受け入れ体制の整備が進みました。

ライオンズの献血アクティビティは、1965年に302W-4地区（山口、島根、広島）の年次大会が「献血運動・花いっぱい運動」をアクティビティのスローガンに採択したのが始まりです。1966年に結成された東京秋葉原ライオンズクラブは、結成記念アクティビティとして献血を取り上げて熱心に取り組み、1975年にはラジオ、テレビで献血を訴えるCMを放映しました。80年代に入ると成分輸血への切り替えが進み、1980年代末には全輸血量の約90%が成分輸血でまかなわれるようになりました。一方で薬害エイズ問題によって、世界の血漿の3分の1を消費し、しかも95%を輸入に頼る日本の血液事業の歪みが浮き彫りになり、厚生省は血漿の国内自給を提唱し成分献血推進がその骨子となりました。そうした中、京都平安ライオンズクラブの尽力で初の大型採漿ルームが京都市に開設されました。

献血事業は全国のライオンズクラブが展開し、日本ライオンズの主要アクティビティとなっています。1989年7月には日本赤十字社が昭和天皇のご遺金を基に献血推進賞を創設し、日本ライオンズ（ライオンズクラブ国際協会330～337複合地区）が第1回受賞の栄に輝きました。

### 青少年アクティビティ

青少年関係アクティビティは日本ライオンズが最も力を注いでいる活動であると言えるでしょう。2004年度には全国で約2万件、総額約14億円YEの奉仕活動が実施されました。その活動は下記に挙げたもの以外にも、レオクラブ、野球やサッカー、剣道などさまざまなスポーツ大会開催、弁論大会や作文コンクールなどの文化事業、農作物の育成や収穫、もちつきや豆まき ライオンズクエストといった季節の催事など多岐にわたります。

### 海外援助アクティビティ

日本ライオンズはこれまでに、さまざまな海外援助活動を行ってきました。それは単なる物品の提供に留まらず、政府の手が行き届かない地域で、保険衛生、医療活動、そして教育支援といった市民が最も必要としている奉仕を実施してきました。支援に当たっては募金活動などを通して、同じ地球上に住みながら困難に直面している隣人たちの現状を知ってもらい、支援の輪を広げていこうという努力も積極的に行っています。1960年代に実施されたインド救ライ活動では、それが国をも動かす大きな事業に発展しました。

インド救ライ  
フィリピン医療奉仕  
教育支援

また、日本ライオンズはライオンズクラブ国際財団(LCIF)への協力を通して諸外国への支援を行っています。2000-01年度の日本ライオンズのLCIFへの献金額は約1,000万ドル強で、これは世界全体の献金の半分以上を占めるものです。

### 災害救援アクティビティ

日本のライオンズクラブは 1952 年の結成以来、国内外を問わず多くの災害救援活動に携わってきました。1955 年に当時全国で 10 クラブしかなかった日本ライオンズが初めて行った合同アクティビティも、フィリピン・ミンダナオ島地震に対する 30 万円の義援金と物資の支援でした。下記に 新潟大火 挙げた活動以外にも、1991 年の長崎県雲仙・普賢岳噴火、1993 年の奥 阪神・淡路大震災 尻島を中心とした北海道南西沖地震、2000 年の北海道・有珠山噴火、東 台湾/トルコ大地震 京・三宅島噴火、そして 2004 年の新潟や福井の水害に際しての被害者 インド西部地震 支援など、その素早い行動は日本ライオンズの団結力と人道主義精神をよく表すものです。海外で発生した大規模災害には、主にライオンズクラブ国際財団(LCIF)を通じて支援の手を差し伸べています。

・330-A 地区が新宿・アルタで献血、骨髄移植推進イベント開催(10 月 3 日)



10 月 3 日(日)、東京・新宿東口駅前のスタジオアルタ1階特設会場で、330-A地区献血・骨髄移植推進委員会(渋谷俊徳委員長)主催の「献血・骨髄移植推進イベント | 命をつなぐチームプレー」が開催された。

この事業は(財)骨髄移植推進財団と、東京新都心(佐藤武雄会長/37 人)、東京 21 世紀(近藤喜則会長/26 人)両クラブとの共催で実施され、公的骨髄バンクを支援する会、ボーイスカウト東京連盟新宿第4団、及び地区内 23 クラブが募金や献血の呼び掛けを行った。特設ステージでは、骨髄移植を受けて社会復帰を果たした、スノーボーダーの荒井善正氏(慢性活動性EBウイルス感染症)と大谷貴子全国骨髄バンク推進連絡協議会会長(慢性骨髄性白血病)などによるトークショー、さかもとえいぞう、工藤マミ、森広隆らのミニライブ、リアルリアルアのサンパシヨが行われ、多くの人たちが足を止め、キャンペーンに関心を示すと共に募金に協力していた。

河合悦子地区ガバナーは、「今年度、10 月を『ライオンズクラブ奉仕月間』と位置づけ、それぞれの地域でこの期間にアクティビティを実施して頂き、広く社会へアピールしようと考えました。また今年度は地区として骨髄バンク支援に取り組んで 15 年目の節目の年でもあり、毎年同様のイベントを開催していた東京新都心、東京 21 世紀両クラブと協力し、一大キャンペーンを展開することになりました。ライオンズや骨髄移植の関係者だけではなく、ボーイスカウトの子どもたちも協力してくれ、まさに命をつなぐチームプレーとなりました」と話していた。

## 全国ライオンズクラブ献血報告抜粋

## 水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」

活動日：2011年8月18日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ

前2年理事 / 武藤大志郎



2011年8月18日(木)、水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」がフードスクエアカスミ水戸見川店駐車場に於いて開催されました。

暑い中、献血にご協力いただきありがとうございました。また、参加いただいたメンバーの皆様お疲れ様でした。

### 献血実績

- ・献血申込者数 59名
- ・献血者数 47名
- ・献血量 15,400ml
  - 200ml 17名 3,400ml
  - 400ml 30名 12,000ml

### 2010～2011年度「献血奉仕総括」

活動日：2011年7月28日

335-C-6R-2Z / 近江守山ライオンズクラブ



会員副委員長 / 南井繁樹

近江守山ライオンズクラブの看板事業は献血である。25年間の献血量100万mlを達成し、虎視眈々と26年連続を狙うのは、自己満足追求ではなく、当クラブ49年の歴史の中で歴代の献血委員会の担ってきた「社会的貢献度」にある。血液事情は、人間の血は人間でしか作れないに始まり、ドナーの健康、被献血者への思いもあって年々厳しい献血基準が定められてきている。科学技術が万能の様に言われても、血は太古から健康な人間からしか採れないのである。

本年は尾谷献血委員長がなんと1,427,800mlを達成。勿論この数字は25年間の中でも最大量であり、現在の400ml献血中心の中、幾多の前代未聞の厳しい献血基準の中での達成である。諸手(もろて)を挙げて祝福をしたい。以下の献血分析が尾谷献血委員長の科学的根拠であり、献血への努力の大切さと、人の情の重さを物語っている。

紹介人数 移動献血会場(バス) 556名 236,800ml

血液センター 269名 143,200ml

合計

825名 380,000ml

献血受付 4,197名

採血者 3,447名

不採血者 750名 18%

来期は、成分献血のバス(移動献血)が中止される予定ときいている。又、ショッピングセンターの盛衰もあって、新会場も確保出来るかも知れないが、努力の甲斐無く中止される会場もあり、献血委員会の苦労は絶えない。尾谷委員長は、この朗報の替りに、積年の腰痛を悪化させたと聞くと、余り頑張って頂くのも と思ってしまう。

しかし、スタート例会での委員長の第一声は、体の事は問わず2年目(連続)も142万mlを超える様努力をしたいと力強いものであった。不採血者(18%)を回避出来る方向もあり、来期は10%の改善が期待される。捨てる神あれば拾う神あり。めでたし。

東日本大震災 ～支援物資をとどける～

活動日：2011年3月24日～2011年3月29日

334-D-2R-3Z / となみセントラルライオンズクラブ



PR委員長 / 今井 司

地震発生から1週間後に332-G地区キャビネット災害対策本部と連絡を取り、支援を申し出たところ、防寒着、下着、カセットボンベ、飲料水や味噌・醤油などの調味料などの要請がありました。また車やガソリンの不足のため配送する手段がないとのことでした。

そこでクラブでは、『これらの支援物資を調達し宮城県まで搬送しよう!』ということになりました。防寒着・子供服などをクラブメンバーや地域の方々に呼びかけ集める傍ら、品薄状態のカセットボンベ購入にメンバー10名が東奔西走。1人1つずつ持って何度もレジに並びました。支援物資の募集と調達・仕分け・梱包を3日間行い、3月27日夜トラック2台とマイクロバス1台に積込み、9名で出発しました。

翌3月28日朝、4R3ZC L阿部と石巻ICで落ち合い、氏より誘導いただいて石巻LC、石巻東LC、石巻中央LC、女川LCへ搬送しました。

途中に石巻港を通りかかり『ここ石巻港のさんま祭りには10台余りの献血車が並び、1000人以上が献血します。献血した人には秋刀魚が配られ大変にぎわうんで

す…。』とL阿部に案内を受け、祭りに活気付いた港の様子を思い描きながら、やりきれない思いで私たちはがれきの続く海岸沿いの道を隣の女川町へ向かいました。

### 第3回献血奉仕活動実施

活動日：2011年5月28日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / L皆川 正孝

第39期最後のアクティビティ「第3回献血奉仕活動」を実施致しました。

当日は、この時期には考えられない台風の影響で、残念ながら雨。昭島駅前と言う事で場所は申し分無いが、買い物に来られる方は車で来てそのまま車で帰る状況でした。

当然の事ながら、駅前にも係わらず結果は・・・

献血申込者：58名、献血可能者：43名、200ml献血：13名、400ml献血：30名という結果でした。

### 海上自衛隊航空隊での献血

活動日：2011年3月13日～2011年3月14日

335-C-5R-3Z / 舞鶴ライオンズクラブ



ITPR委員長 / 布川 博康

舞鶴ライオンズクラブでは、クラブ事業の大きな柱である献血活動を行っております。

今回は、海上自衛隊さまのご協力をいただき、航空隊での献血を実施しました。毎回、海上自衛隊さまには積極的に取り組んでいただいておりますが、この日は特に多くの隊員の方々に献血を行って頂きました。その数は150名を超える事となりました。震災直後でもありましたが、自衛隊の方々には大変お世話になりました。

我が舞鶴の海上自衛隊からも多くの隊員の方々が、震災復興にむけて現地において今も活躍をされております。今後とも地域においても、日本においてもなくてはならない存在であることをあらためて認識しました。

ありがとうございました。

### 『びわこ地球市民の森のつどい 2011』 緑の例会

活動日：2011年4月16日

335-C-6R-2Z / 近江守山ライオンズクラブ



## 会員委員 / 南井繁樹

昔 守山は、“森山” ” 杜山” ” 護山” といわれた時代があった。

守山に地球市民の森ができたのも、野洲川と守山市を良く知る、栗東市出庭の出身である国松善次前知事の時である。平安時代、守山の都賀山は、現在の浮気(守山駅東口付近)から岡にかけてあり、鎌倉時代はうっそうたる森林地帯であったと聞く。当クラブの例会場、都賀山荘の名の由来であり、風光明美な湧水の里であった。また4月29日は、昭和天皇が日本中に植樹に努められた記念で「緑の日」として国民休日であった(今は昭和の日)。

本日の「つどい」のサブテーマは” 夢・希望・つながる未来・緑から” とある。東北地方太平洋沖地震への鎮魂の意味でも、10年、20年後の森の再生を祈り、皆で心込めて植樹ができたと思う。〈植樹、公園作りは2001年が最初で、毎回2~3000本が植えられている〉

前日の天気予報では9~12時は雨40%、昼から晴れと、村上コミュニティ委員長の悩みとなり、各方面から開催についての問い合わせでイライラの連続であった。彼の念力か森田重吾大会委員長(L森田重夫のご子息)の運の強さで、晴れと雲りの間で集い、3000名近い方々をやきもきさせながら10時の開会式、10時30分からの一斉植樹、各ブースでの「東日本大震災」の義援を募る各種団体のテント村が大盛況になった。

当クラブも11時には先月の震災で延びた「25年連続献血100万mlの達成」イベントを開催した。宮本和宏守山新市長、滋賀県血液センター新所長の臨席を得て、ピットリ賞、前後賞合わせ3名の方々に立派な花束と記念品が贈られた。地球市民の森での献血活動としては最高の3万ml超は間違いのないと思われる出足で、ドナーの方々の何とか被災地や病の方々を救いたいとの思いが伝わってくる。

我がクラブは「芋煮とおにぎりの店」もオープン、少々肌寒い気温もあって大人気を拍した。売り上げは、コミュニティ委員会で義援金に当てるとの事。

またゲストの上路博守山市教育長には、市内各小学校への児童交通安全登校旗200本を贈呈。24年間で3,823,404本となり、小さなボランティアであるが、多くの児童の生命を守ってきた自負がある。

13時から始まった例会は予報通りの晴れ間もみえ、京都での年次大会から取って返した山本会長、村田幹事による帰還報告、震災義援金281万円が当クラブ49名の総意を集め贈られたこと、小林第一副会長、上田副幹事による次年度の会長スローガン、クラブ運営方針、重点事業、組織及び委員会構成等が次々と採択された。

本日の緑の例会は盛だくさんのスケジュールと案件の上に天候にも振り回されたが、結果をみれば、環境、献血、教育各委員会事業の達成、年次大会への出席、次年度の例会承認等全てがスムーズに進行し、メンバーの清々しい笑顔が「また会う日まで」に華を添えた。

街頭募金と緊急献血活動

活動日：2011年3月18日

337-A-3R-2Z / 行橋ライオンズクラブ



会長 / 木村 博

行橋ライオンズクラブ(会長 木村 博 / 71名)は、平成23年3月18日 JR 行橋駅で街頭募金活動をした。

緊急献血活動を3月20日ゆめタウン行橋で行った。また、通常献血活動を3月18日みやこ町豊津支所及び22日みやこ町ゆいの郷で行い、同時に募金活動も行った。4月21日行橋市民会館でも献血・募金活動を予定している。

集められたお金は、LCIFを通じてライオンズクラブ国際協会へ寄付し、一部は毎日新聞社と西日本新聞社を通じて被災地へ送った。

水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」開催  
活動日：2011年2月22日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2年理事 / 武藤大志郎

2011年2月22日(火)、フードスクエアカスミ水戸見川店駐車場において、水戸LC主催の「ふれ愛献血デー」キャンペーンを実施しました。ご協力ありがとうございました。

#### 献血実績

- ・ 献血申込者数 . . . . . 55名
- ・ 献血者数 . . . . . 47名
- ・ 献血量 . . . . . 16,000ml
- 200ml:14名 . . . . . 2,800ml
- 400ml:33名 . . . . . 13,200ml

#### 献血アクティビティ

活動日：2011年2月8日

335-C-2R-1Z / 京都高野川



献血委員長 / 北尾 宗一

献血は、これまでも力を入れている事業の一つでしたが、今回は「献血サポーター」に登録して初めてのアクティビティを実施しました。

335-C 地区 2R1Z のゾーン・チェアパーソンの激励を頂き、天候に恵まれ気温も穏

やかな中 400cc 献血を PR しました。

400cc 献血は、体重制限があるため不適合になる方(特に若い女性)が全体の 1 割を占めており非常に残念でしたが、目標人数の達成が出来た事には満足していません。

高校生献血について

活動日：2011 年 2 月 4 日

335-B-9R-2Z / 海南ライオンズクラブ



PR 委員会委員長 / 大岡 宏

2 月 4 日海南高校大成校舎で、高校生による献血が行われました。

335-B 地区の献血・アクティビティ委員長 L 渡邊幹男も遠路見えてくださいました。海南ライオンズメンバーも出席し、9 時より 1 時迄学年別に分かれて、多くの学生の献血を受けました。献血受付人数は 51 人、献血者数は 24 人でした。

この日献血を行うために、1 月 26 日に海南高校大成校舎で御坊ライオンズクラブの L 岡本崇が「血の尊さ」について講演を行いました。

昨年度海南ライオンズクラブが初めて大成校舎の献血に参加したときは受付人数は 34 人、献血者数 24 人で、また学校内での献血ということで父兄の同意書も必要でしたが、今年度は昨年度の効果もあって献血者数が伸びました。

此のような奉仕活動が地域の評価となり、やがてライオンズ仲間が増える事につながっていくと思います。

「只今 88 万 ml (献血事業奮闘中)」

活動日：2010 年 2 月 20 日

335-C-6R-2Z / 近江守山ライオンズクラブ



会員 / 南井繁樹

近江守山ライオンズクラブ、国際親善、LCIF、環境、青少年、教育文化、福祉、健康のアクトの一つ、献血事業とは、と常々考えていたら、とある国際会長が、「目に見える事業(クラブ員にとって誇りとなる事業)=看板事業について、大切な事」と書いておられた。

日本社会も国是、社是、家訓、教訓、諺なるものがある、心や行動のより所となっている。また、この様な芯(心、精神、行動等)を持たない国や会社、家庭、個人が増えている。

世は乱れ、戦争、事件、事故、傷害、誹謗、虐待が絶えない。この様な社会に、ライオンズクラブは存在していて、当クラブも 50 名近い奉仕の徒が集っている。

創立 105 年の国際ライオンズクラブの奉仕の軌跡は、遍く地球上の民族を網羅し

ている。我がクラブも、結成 47 年を数え、幾多のアクティビティに挑戦してきた。献血は、その中でも一番長く、一番強い意志で継続されてきた事業と思う。

人への優しさ、病への備え、国民としてしなければと思う奉仕の一番が献血と思われる。「いかに生きるか」よりも「死をいかに回避できるか」を我々の先輩達が、大切に証しである。金字塔 25 年連続 100 万 ml を目指し、尾谷孝献血委員長の奮闘をふり返る。

クラブ事業は、一年毎に変わるクラブ会長組織の中で単年度の個性ある奉仕か、複数年にまたがる継続奉仕がよいのか議論あるところである。

組織的に動く (we serve) ライオンズクラブでは、毎回変わる奉仕は、計画、実行、検索(反省)が難しい。複数年のアクトを中心に、新奇性ある奉仕の少ないのが現状と思う。

いづれ程度の差こそあれ、当クラブの献血事業は 40 年近く続く長期アクティビティである。その内の 24 年間、献血量 100 万 ml を連続更新中であり、各年の献血委員長は、頭が痛いことである。

献血委員会は、チャーターメンバーの L 藤井に続き、L 川北、L 間宮等複数回の委員長経験を持つカリスマ的なリーダーに恵まれ、とにかく、本日も営々と献血現場への奉仕が続けられている。

L 尾谷、献血委員の方々のきめ細やかな心遣い、チームワークが光って見える。

## 第 2 回 献血奉仕活動実施

活動日：2011 年 2 月 19 日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / 皆川 正孝

『今期第 2 回献血奉仕活動』を 2 月 19 日(土)に実施致しました。冬晴れの中、天候にも恵まれた今回の献血奉仕活動でしたが、今までとは違い人通りが若干少なく感じた今回の献血でした。

受付トータル数:68 名      200mL 献血:18      400mL 献血:38 名  
採血出来ず:12 名

次回の献血奉仕活動は、5 月 28 日(土)を予定して居ります。

## はたちの献血キャンペーン

活動日：2011 年 1 月 9 日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2 年理事 / 武藤大志郎

2011年1月9日(日)、山新グランステージ水戸に於いて「はたちの献血キャンペーン」が実施されました。

### 第1回献血奉仕活動実施

活動日：2010年11月6日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / 皆川 正孝

『今期第1回献血奉仕活動』を11月6日(土)に実施致しました。東京昭島ライオンズクラブに於ける献血奉仕活動の位置付けは、他クラブ同様奉仕活動の中でも最も重点を置いている活動の一つです。そして、その献血奉仕活動は年3回昭島北口駅前で行って居ります。

特に、今回の献血活動に於いては、親クラブの「東京横田ライオンズクラブ」のメンバーと合同で開催させて頂きました。

当日は秋晴れで汗ばむ程の晴天にも恵まれ、多くの方が昭島を散策して頂いたのですが、JR駅構内で不審物が発見されたとの事で電車が一時止まり、その間人の動きが全く無くなり残念ながら前期の第1回献血活動より結果が出せませんでした。

受付トータル数：69名      200mL献血：12名      400mL献血：40名  
採血出来ず：17名

次回の献血奉仕活動は、2月19日(土)を予定して居ります。昭島方面に来られる予定の皆様、昭島北口駅前でも活動して居りますので、ぜひお立ち寄り下さい。

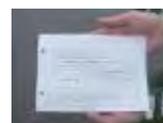
また、今回奉仕活動にご協力頂きました「東京横田ライオンズクラブ」の皆様、大変お疲れ様でした。

東京昭島ライオンズクラブ 幹事 L 皆川 正孝

### 水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」開催

活動日：2010年11月18日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2年理事 / 武藤大志郎

2010年11月18日(木)、ジェームス茨城千波店の駐車場において、当クラブ主催の「ふれ愛献血デー」が開催されました。

この日の成果は・・・献血申込者は茨城トヨタの方々など67名、うち献血実施者が53名で、採血量としては19,800ccになりました。

さすがに立冬を過ぎると寒さが身に応え、ストーブに近寄りがちでしたが、設営・撤収は、寄贈テントの威力もあり極めてスムーズにいました。参加、協力いただいた 16 名の皆さん、お疲れ様でした。

#### 献血実績

- ・ 献血申込者数 . . . . . 67 名
- ・ 献血者数 . . . . . 53 名
- ・ 献血量 . . . . . 19,800ml
  - 200ml: 7 名 . . . . . 1,400ml
  - 400ml: 46 名 . . . . . 18,400ml

献血で未来の幸せ分かち合い

活動日：2010 年 11 月 26 日

335-C-9R-1Z / 田原本



PR・情報・IT 委員長 / 福原 誠作

田原本ライオンズクラブ(会長 森 和俊 会員 32 名)は、11 月 26 日恒例の献血例会を田原本町庁舎及び奈良中央信用金庫本店の二ヶ所でおこないました。献血奉仕キャンペーン(ブラッドドライブ)は当クラブは毎年この時期に実施され、他のクラブに負けず劣らず永い歴史と実績があります。今回も町商工会青年部とタイアップ、地味ながらライオンズの PR も兼ねたアクティビティですが、献血奉仕は地域社会と密接に関わり、人道的奉仕として大きな使命を持っています。

当クラブの献血奉仕でひとつ異色なのは、毎回幼稚園児(5 才~6 才児)を招聘していることです。約 70 名の園児に採血現場を見学してもらい、献血の大切さを理解し将来体験してもらうために早くから実施しています。献血委員会のメンバーからの分かりやすい説明に園児たちは皆おとなしく真剣にうなずいていました。

因みに当日の献血ドナーは合計 164 名、うち 400ml ドナーは 126 名でした。当クラブは、高齢化と会員の減少でドナーは年々減っていますが、それでも元気な会員は 5 名おり、なかでも連続 20 回以上の記録保持者も一人おられました。

冬場はとくに血液が不足がちで、日赤の関係者もやきもきしておられましたが、事前にチラシや口コミ等で啓発活動をしてきたお陰でますますの盛況で、町民の皆さんから大変喜ばれています。

田原本ライオンズクラブ PR 委員会

黒石 LC 献血運動

活動日：2010年11月21日

332-A-3R-1Z / 黒石ライオンズクラブ



前会長 / 工藤 英磨

2010年11月21日(日) 黒石市「スポカルイン黒石」で黒石ライオンズクラブ献血運動が開催されました。L 15名参加してAM9:00～PM3:00まで約6時間の献血運動でした。献血者数は200mlが22名、400mlが63名で中止の方が15名いて総勢で100名の方に協力していただきました。今回は記念に、傘のプレゼントをさせていただきました。

会場では同時にりんご祭りも開催していたので、大変賑わっていました。これからも、献血運動が続けられるようにがんばります。

小学校管楽器演奏会協賛と三献運動啓蒙活動

活動日：2010年11月27日～2010年11月28日

334-E-3R-1Z / 松本中央ライオンズクラブ

幹事 / 田澤 寛康



2010年11月27日(土)と28日(日)の2日間に渡り、松本市民芸術館で開催された、第36回中信地区小学校管楽器交歓演奏会への協賛金として、例年に引き続き10万円を寄与し、会場では本クラブの小寺会長が代表し、協賛団体としての挨拶を行いました。

また、両日には青少年委員会を中心に3回に分けて大勢のメンバーが会場に集まり、三献運動アピールのためのパンフレット、アイバンク・臓器提供意思表示カードや献血推進、薬物乱用防止のティッシュなど約600部を配布する啓蒙活動を実施しました。

水戸献血連合会主催「献血推進デー」

活動日：2010年11月4日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2年理事 / 武藤大志郎

2010年11月4日(木)、水戸献血連合会主催「献血推進デー」が水戸献血ルームに於いて開催されました。

「楽市楽座」で献血推進奉仕活動

活動日：2010年10月23日



### 334-E-3R-1Z / 松本中央ライオンズクラブ

幹事 / 田澤 寛康

10月23日(土)、信州スカイパークで開催された「第35回楽市楽座」にて、献血推進奉仕活動を実施しました。この活動は、環境保全委員会が中心となり、クラブアクティビティとして毎年恒例としているものです。この日は朝から大勢のライオンが参加し、秋晴れの空の下、一日中会場来客者に献血を呼びかけ、実績として400mlが47名、200mlが7名の合わせて54名から、合計20,200mlの血液を集めました。

いつもと違う『学童野球大会』

活動日：2010年10月17日

### 333-E-7R-1Z / 茨城三和ライオンズクラブ



クラブ幹事 / 下村宏幸

茨城三和ライオンズクラブでは10月17日(日)に『第三回茨城三和LC杯近隣学童野球大会』の開会式を行った。近隣の少年野球チーム24チーム約500名の学童を招いて開催した。これだけの話しでは、どこでもやっている単なる野球大会で特筆する所はなにもない。

話はここから、『子供らに、ただ(単純に)野球をやらしてもおもしろくねえ、今年の野球大会は、なんか一工夫すんべ・・・(茨城弁)』と誰かが言い出した。そして検討した、子供達には環境問題に目を向けてもらうため、参加料としてエコキャップをチームあたり500個(一人20個程度)持参してもらう。野球指導者および保護者には献血に協力してもらうことにし各チーム4名以上の協力をお願いすることにした。青少年、環境保全、献血と無謀にも3つのAGTを同時に実施するという事になった。

そして参加チームに提案した。当初は相当な反発を食らうのではと危惧したが、多少の意見は有ったもの予想に反しての概ね好意的に受け入れてくれた。急遽日赤の採血車を手配するなど準備に取り掛かり、何とかまに合わせた。

結果は次の通り、エコキャップ回収125kg(約50,000個)で当初予想の500個×24チーム(12,000個)を大きく上回った。献血も目標4名×24チーム=96名のお願いにたいして申込者123名で、こちらも予定数を大きく上回りメンバー自身が採血する時間が取れないほどの状況でした。

この企画を通して、子供達には健康で野球を出来る喜びに対し、エコキャップの回収により社会に恩返しをすること。野球指導者および保護者にも献血による社会奉仕をしていただくことが出来て、ライオンズクラブの奉仕活動が少しだけ広がりを見せたかと自己満足では有るが感じる事ができ、メンバー一同心地よい達成感

を味わうことができた。

#### 東小橋会館 献血活動

活動日：2010年10月27日

335-B-2R-4Z / 大阪錦城ライオンズクラブ

会長 / 中内



10月27日(水) 大阪市東成区 東小橋会館において献血活動を行いました。

地域の方々のご協力により、受付 57名 採血 47名

ありがとうございました。

#### 産業まつりでの献血推進活動

活動日：2010年10月23日

337-D-3R-2Z / 沖縄キーストン

幹事 / 高良 強



去った10月23日土曜日の奥武山運動公園で開催された産業まつりにて献血推進のため活動を沖縄赤十字社と共同で実施した。

献血の受付者は26人であったが、そのうち採血できた人数は20人であった。

日 時：平成22年10月23日(土)

場 所：奥武山運動公園

#### 献血活動

活動日：2010年10月9日

335-B-2R-4Z / 大阪錦城ライオンズクラブ

会長 / 中内順一



大阪市東成区 神路小学校において、神路連合振興町会様のご協力のもと、献血活動を行いました。

当クラブにとっては、今期3回目の献血事業です。

当日は、雨にも拘わらず 近隣のたくさんの方々にご協力いただきました。「ありがとうございました」

受付 165名(昨年181名) 採血 129名(昨年144名)

大阪府では、1日に

A型	約 625 人分
B型	325 人分
O型	488 人分
AB型	187 人分

が使用されています。(200ml 献血を 1 人分として換算)  
安定的に届けるには 4 日分の確保が必要です。

大阪府赤十字血液センター資料より

今後も、大切な献血活動 がんばりましょう!

### 三献活動

活動日：2010 年 10 月 7 日

337-B-1R-8Z / 鶴崎臨海ライオンズクラブ



幹事 / 木南 久和

10:00～16:00

場所 大分市皆原 コープふらいる駐車場にて

参加者 ライオン 19 名

献血をされた方 55 名

献血できた方 44 名

献血できなかった方 11 名

#### 献血の内訳

400ml 献血 42 名

200 // 2 名

献血できなかった内訳

比重不足 6 名

その他 5 名

### 常滑焼まつり協賛 献血運動

活動日：2010 年 8 月 21 日

334-A-5R-1Z / 常滑ライオンズクラブ



幹事 / 斎田正彦

常滑市のビッグイベントである常滑焼まつりに協賛して、今年も恒例の献血運動を実施しました。

イベント協賛の事業と言うこともあり、毎年多くの方のご来場いただいています。今年も、愛知県赤十字センターからも、2台の献血車にご協力をいただき、朝9時半から夕方4時過ぎまで、163名の方に、献血をお申し出いただきました。124名(226単位)の献血をいただき、常滑クラブとしても、おそらく数量的には過去最高であったのではないのでしょうか。皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。

当クラブでは、常滑市保健センターのご協力もいただき、毎年、夏と冬に年2回の献血運動を行っております。今後とも、地道ではありますが、献血事業には継続して取り組んでいきたいと考えております。

水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」開催

活動日：2010年8月19日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2年理事 / 武藤大志郎

平成22年8月19日(木)、フードスクエアカスミ水戸見川店の駐車場で、当クラブ主催の『ふれ愛献血デー』が開催されました。

6月に寄贈したてのテントが眩しく映えていましたが、例年になく猛暑が続いていたためでしょうか、この日の採血量は、残念ながら目標値に届かなかったようです。

参加いただいた皆様、お疲れ様でした。

#### 献血実績

- ・ 献血申込者数 67名
  - ・ 献血者数 48名
  - ・ 献血量 17,200ml
- |       |     |          |
|-------|-----|----------|
| 200ml | 10名 | 2,000ml  |
| 400ml | 38名 | 15,200ml |

水戸献血連合会主催「愛の血液助け合い運動」

活動日：2010年7月1日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



2年理事 / 武藤大志郎

2010年7月1日(木)、山新グランステージ水戸に於て水戸献血連合会主催「愛の血液助け合い運動」が開催され、当クラブより9名参加協力致しました。

茨城県赤十字血液センター テント一式寄贈

活動日：2010年6月10日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



1年理事 / 武藤大志郎

好天に恵まれた6月10日、当クラブより茨城県赤十字血液センターに対し、小林会長、栗山会計、佐藤秀策副幹事が出席のうえ、テント一式の寄贈を行ないました。

血液センターでは、水戸北ライオンズクラブより寄贈されたテントを利用していましたが、幕が劣化してきたことを受け、小林会長の発案で実行させていただきました。

血液センターの佐藤純一所長から、「新しいテントのお陰で、雨天での献血受付の作業が楽になり、職員の負担を軽減することが出来ます。その分一人でも多くの方にお声をかけ、一人でも多くの方に献血にご協力いただけるよう頑張ります。水戸ライオンズクラブの皆様のご厚意に深く感謝します。」との謝辞をいただきました。

今回寄贈したテントを利用した献血が8月に行なわれますので、当日はテントを見物がてらに会場に足を運んでみては如何でしょうか。

これからの献血奉仕活動に期待を!!! 地元大阪市立堀川小学校PTAとともに  
活動日：2010年5月24日

335-B-1R-2Z / osakatenjinbashi



環境保全・献血奉仕委員長 / 久? 健三

天神祭と学問の神様で知られる『大阪天満宮』のおひざ元にある1丁目から7丁目まで、日本一長いと言われている《大阪天神橋商店街》。ここは南北に3キロ、そして5つの最寄り駅があります。

ただ長いだけでなく、この長い商店街のいたるところに歴史があり、今に伝わる名所があります。そしてそこから外れた街中にもいろいろな面白い店や場所があります。

そんな雰囲気のに事務局を構えているのが『大阪天神橋ライオンズクラブ』です。太田会長以下22名のクラブですが、年6回の《清掃・献血奉仕活動》を行っております。商店街入り口での活動は暑い日は暑く、寒い日は寒いと、天候そのままの環境での献血奉仕です。

「献血への関心を高めるためには?」例会、理事会で何度も議題にあがっております。「1回限りのイベントで終わらせるのでは無く、長く続けられ少しずつで良いから伸びていくことが大切では」と考えておりました。

人権擁護講演会の後援を、子供たちのために楽しい読書が出来る環境をと考え『大阪天神橋ライオンズクラブ文庫』を設置、応援させていただいている大阪市立堀川小学校と共に奉仕活動する事が出来たらと願い、お願いしましたところ快いお返事を頂きました。

PTAの方々は地元を良く知っておられます。知人、友人も通行されます。呼びかけ方も違ってきます。とても力強い協力者です。2009年11月からの参加で今まで4回の献血奉仕活動が行われ新役員の方にも引き継ぎをしていただけました。

地道ではありますがこれからも人と人とのつながりを大切にし、地元の方々と共に歩んでいきたいと願っております。

### 第3回献血奉仕活動実施

活動日：2010年5月15日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / 皆川 正孝

今期最後のアクティビティーである【第3回献血奉仕活動】を5月15日(土)に実施致しました。ここ数日、5月にしては若干肌寒さを感じずの日が続いて居りましたが、当日は雲一つ無い快晴、メンバーそしてレディーの皆さんも心地良さを感じながら実施することが出来ました。

東京昭島ライオンズクラブに於ける献血奉仕活動は、クラブアクティビティーの中でも特に重点を置いており、昭島駅北口駅前に於いて年3回実施して居ります。この活動は他のアクティビティとは異なり、結果が伴うだけに気合を入れて各クラブ実施しているのではないのでしょうか。

今回の実施に当たり、この活動が色々な面で影響される事を改めて感じました。天候、気温等は皆様ご承知の通りですが、今回はETC割引制度でした。献血会場に向かう途中のニュースでは、既に中央自動車道の渋滞が始まった事を告げて居りました。多くの方が割引制度を利用し、郊外へドライブか?と心の中ではそれを羨ましく思いつつ会場に向かいました。メンバー集合と共に準備も万端。しかし、会場周辺ではこれだけ良い天気にも関わらず、いつもと人の動きが全く異なりました。

献血奉仕活動終了後、5月第一例会並びに反省会を開催致しました。その中で、献血検眼奉仕委員会委員長 大倉直三ライオン より本日の結果報告を頂き、ETC割引制度の影響を納得せざるを得ない今回の奉仕活動でした。結果報告、受付数:72名、採決数:46名、採決出来ず:26名、200mL:14名、400mL:32名という結果でした。(通常の受付より約20名程少ない)

今期のアクティビティーも全て無事終わる事が出来た事に感謝し、来期に繋がればと思っております。

## 第二回献血奉仕活動

活動日：2010年2月20日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / L 皆川 正孝

『第2回献血奉仕活動』を2月20日(土)に実施致しました。

皆様もご存知の通り、冬場の献血奉仕は寒さとの戦いであり、献血して下さる方も同じ思いの中で頑張っている筈です。そして、一年を通じて血液が一番足りない時期だからこそ冬場の献血奉仕活動は重要な要素を占めているのです。

その様な中、今回も覚悟を決めて昭島駅前に集合、ところが今回はチョット違って居ました。最近の寒さとは異り、我々に天が味方するが如く春を思わせる陽気と成ったのです。

前回のクラブ・リポートでもご報告致しましたが、最近の昭島駅周辺は映画鑑賞、スポーツそしてショッピングと人の流れが大きく変わりました。そして、この温かさも重なりこの時期としては人出も順調な中で実行する事ができました。

献血申込者数 91 名、献血者数 66 名、献血できなかった人数 25 名  
(内訳; 200mL 献血 19 名、400mL 献血 47 名)

今期の献血奉仕活動も残りあと1回、次回も一致団結して成果を出したいと思っ  
て居る東京昭島ライオンズクラブです。

## 献血

活動日：2009年12月19日

337-D-2R-2Z / 鹿児島谷山ライオンズクラブ



幹事 / 福嶋 敏郎

谷山サザンホールで3LC合同で献血を行いました。  
(鹿児島谷山LC、鹿児島南LC、鹿児島東LC)

寒い日だった為、献血数はあまり伸びませんでした。冬場の貴重な献血確保に  
微力ですが協力できた事と思います。

水戸ライオンズクラブ主催 ふれ愛献血デー

活動日：2009年11月17日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



1 年理事 / 武藤大志郎

2009 年 11 月 17 日(火)、ジェームス水戸店に於いて水戸 LC 主催「ふれ愛献血デー」が開催されました。(株)茨城トヨタ自動車の社員の皆様、他献血者様、お手伝い頂いたメンバー様、ご協力有難うございました。

献血実績

献血申込者数 75 名

献血者数 66 名

献血量 23,600ml

200ml . . . 14 名 2,800ml

400ml . . . 52 名 20,800ml

3,000 人献血・各クラブ総力を結集！！ 8R・1Z・2Z の 15 クラブでの献血活動

活動日：2009 年 9 月 12 日 ～ 2009 年 12 月 6

日



334-A-8R-1Z / 安城南ライオンズクラブ

PR・IT 委員会 / 杉浦弘昌

12 月 6 日で 468 名のご協力をいただき、ありがとうございました。

安城南ライオンズクラブ 行動目標：会員数 98 名×4 名=392 名の献血。

記載内容=日程、場所/担当委員会(献血受付数/献血者数)

第 1 回 9/12(土) アピタ安城南店/3 献骨髓移植推進、環境保全委員会(受付 95 名/献血 58 名)

第 2 回 10/1(木) 安城市役所駐車場/保健、3 献骨髓移植推進、アイヘルス聴力保護委員会(受付 56 名/献血 38 名)

第 3 回 10/4(日) 福祉まつり/日本赤十字社と共催、薬物乱用防止委員会(受付 104 名/献血 74 名)

第 4 回 10/24(土) サンクスフェスタ/安城 3 ライオンズクラブと合同、LCIF・国際協調委員会(受付 93 名/献血 59 名)

第 5 回 11/13(金) (株)アチカ機械/薬物乱用防止委員会(受付 84 名/献血 66 名)

第 6 回 11/15(日) イトーヨーカドー安城店/アイヘルス聴力保護、社会福祉・青少年委員会(受付 92 名/献血 74 名)

第 7 回 11/23(月) 中央精機(株)/3 献骨髓移植推進委員会(受付 36 名/献血 30 名)

第 8 回 12/6(日) 刈谷ハイウェイオアシス/レクレーション委員会(受付 86 名/献血 69 名)

献血は、上記以外、刈谷及び岡崎の献血ルームで可能です。活動予定時間：準備

9:30～、午前の部 10:00～12:00、昼食、午後の部 13:00～16:00、片付け 16:00～。

安城南ライオンズクラブ ホームページに掲載中!!

→<http://www.fujii-kakou.co.jp/amliions/top.html>

(画像 1) 第 6 回 11/15(日)イトーヨーカドー安城店にて。

(画像 2) 安城市消防団員の皆さんも協力して頂きました。安城南 LC よりアクティビティーとして、ヘッドランプや T シャツなどを寄贈しています。

(画像 3) 第 8 回 12/6(日)刈谷ハイウェイオアシスにて。

### 第一回 献血奉仕活動

活動日：2009 年 11 月 7 日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



幹事 / 皆川 正孝

『第 1 回 献血奉仕活動』を 11 月 7 日(土)に実施致しました。当クラブにとって献血は、他クラブ同様最も重点を置いている奉仕活動の一つです。年 3 回、最近では益々人の往来が多くなった昭島北口駅前で、良い立地条件の下実行しています。

50 年ほど前の昭島はいわゆる基地の町。近くには立川飛行場、横田飛行場、そして昭島には昭和飛行機工業があり、その全てに米軍が駐留していました。現在では唯一横田基地だけが存続しており、立川基地の跡地には昭和記念公園を始め多くの施設が建てられました。その一角に東京都西赤十字センターが在ります。

それでは、昭島地区の基地だった『昭和飛行機工業』はどうなったのか？

昭島駅前のお話です。現在の『JR 昭島』と言う駅名は以前は『国鉄昭和前』でした。『昭和飛行機工業の前』から付いたと記憶して居ります。当時昭島には、昭和飛行機の従業員が大勢住んでいました。その頃は誰もが『昭和前周辺は発展しようにも出来ない町』と考えて居たはずで、昭和前北口の殆どが昭和飛行機の土地だった為、開発の余地が無いと思って居たからです。

それから十数年で昭和前は少しずつ変わって行きます。駅名は『昭和前』から『昭島』へ。昭和飛行機の土地の一部は公団に売却されて高層住宅が建ち、それに伴い人口が一気に増加しました。当時米軍が使用していたゴルフ場は、現在東京近郊の中でも非常に人気の高い『昭和の森ゴルフ場』となりました。飛行機の格納庫は『屋内テニスコート場』や『屋内スイミング場』に変わり、最近では『ハーレー・ダビットソン』のショールームが出来、週末には多くのバイカーで賑わって居ます。

駅前にはショッピングセンターや映画館が在り、我々が例会場としている『フォレスト・イン昭和館』は結婚式や催事等、地域に無くては成らない人気のホテルです。JR 昭島駅周辺は『スポーツ・娯楽そしてショッピングの街』として生まれ変わり、現在では JR の乗降客数は一日約 52,600 人とされています。

この様な地の利を生かし、昭島駅前で『年 3 回の献血奉仕活動』を行って居ります。今回の活動では、献血も大分一般の皆様にご定着したな、と感じました。献血カードをすでに取得し、パソコンでのデータ受付が多くなったからです。これには日本赤十字社は勿論、われわれライオンズ全体のアクティビティの成果も計り知れない程大きいはずだと感じました。

当日は汗ばむ程の秋晴れで、昭島を散策する人も多かったお陰で、受付トータル数：88 名、200mL 献血 25 名、400mL 40 名、採血出来ず：23 名と、大変良い結果を出す事が出来ました。

今、世界的に『新型インフルエンザ』への早期対応が求められている中、これからの献血活動でも、多くの悪状況を想定しなくてはならないと感じた今回の献血奉仕活動でした。

献血推進アクティビティ  
活動日：2009 年 10 月 31 日

334-E-3R-1Z / 松本中央ライオンズクラブ



幹事 / 堀内 周次

松本城公園で開催された「第 34 回楽市楽座」にて、クラブアクティビティとして毎年恒例としている献血推進奉仕活動を実施しました。秋晴れの空の下、会員半数以上のライオンが参加し、会場来客者に献血を呼びかけました。実績として、200cc が 13 名、400cc が 53 名の合わせて 66 名から、合計 23,800cc の血液を集めました。

3,000 人献血・各クラブ総力を結集!! 8R・1Z・2Z の 15 クラブでの献血活動  
活動日：2009 年 9 月 12 日 ~ 2010 年 12 月 6 日

334-A-8R-1Z / 安城南ライオンズクラブ



PR・IT委員会 / 杉浦弘昌

安城南ライオンズクラブ 行動目標:会員数 98 名×4 名=392 名の献血。10 月 24 日時点で 229 名のご協力をいただいています。

記載内容=日程、場所/担当委員会(献血受付数/献血者数)

第 1 回 9/12(土) アピタ安城南店/3 献骨髓移植推進、環境保全委員会(受付 95 名/献血 58 名)

第 2 回 10/1(木) 安城市役所駐車場/保健、3 献骨髓移植推進、アイヘルス聴力保護委員会(受付 56 名/献血 38 名)

第 3 回 10/4(日) 福祉まつり/日本赤十字社と共催、薬物乱用防止委員会(受付 104 名/献血 74 名)

第 4 回 10/24(土) サンクスフェスタ/安城 3 ライオンズクラブと合同、LCIF・国際協調委員会(受付 93 名/献血 59 名)

第 5 回 11/13(金) (株)アチカ機械/薬物乱用防止委員会

第 6 回 11/15(日) イトーヨーカドー安城店/アイヘルス聴力保護、社会福祉・青少年委員会

第 7 回 11/23(月) 中央精機(株)/3 献骨髓移植推進委員会

第 8 回 12/6(日) 刈谷ハイウェイオアシス/レクリエーション委員会

献血は、上記以外、刈谷及び岡崎の献血ルームで可能です。活動予定時間:準備 9:30~、午前の部 10:00~12:00、昼食、午後の部 13:00~16:00、片付け 16:00~。安城南ライオンズクラブ ホームページに掲載中!!

→<http://www.fujii-kakou.co.jp/amliions/top.html>

(写真左)第 1 回 9/12(土)アピタ安城南店にて。(写真中)第 2 回 10/1(木)毎年恒例の献血例会時開催の安城市役所駐車場にて。(写真右)安城ホームニュース掲載記事  
全員出席アクティビティ~七夕まつりにおける献眼献腎街頭活動事業~  
活動日:2009 年 8 月 9 日

334-A-8R-1Z / 安城南ライオンズクラブ



PR・IT委員会 / 杉浦弘昌

場所 JR安城駅前一円 A～E地点

毎年恒例の全員出席アクティビティ、七夕まつりにおける献眼献腎街頭活動事業が行われました。

当日は来賓として、8R・1Z・ZC L川上文彦、8R・1Z・ZCA L伊藤政美、8R・PR・ライオンズ情報IT委員 L小笠原正義、8R献眼・献腎・献血・骨髄移植推進委員 L伊藤武の地区役員をお招きし、ガールスカウト愛知43団、96団の40名のご協力を得て、クリアファイルに「ドナーカード、骨髄パンフ、鉛筆一式」の配布品を用意し、JR安城駅前一円、5ヶ所で募金活動を実施しました。

安城七夕まつりへ協賛金、ガールスカウト連絡協議会へ助成金と謝礼、愛知県眼衛生協会へ会員募金と街頭募金を贈呈いたしました。

安城南ライオンズクラブ ホームページに掲載中!!

→<http://www.fujii-kakou.co.jp/amliions/top.html>

(写真左)築本屋前B地点。ガールスカウトのご協力を得てスローガン「目の不自由な人に愛の光を」。(写真中)願いごと広場C地点。クリアファイルに「ドナーカード、骨髄パンフ、鉛筆一式」を配布。(写真右)八百文前D地点。会長L白谷康裕、来賓と共に、A～E地点へエールを送りながら募金です。

水戸ライオンズクラブ主催 ふれ愛献血デー

活動日：2009年8月21日

333-E-2R-1Z / 水戸ライオンズクラブ



1年理事 / 武藤大志郎

2009年8月21日(金)午前9時30分より、水戸ライオンズクラブ主催「ふれ愛献血デー」がフードスクエアカスミ水戸見川店駐車場に於いて開催されました。

献血実績

献血申込者数 75名

献血者数 55名

献血量                    合計 ・ ・ ・ ・ 18,800ml  
                                 200ml ・ ・ ・ ・ 16名    3,200ml  
                                 400ml ・ ・ ・ ・ 39名    15,600ml

献血にご協力頂き、誠にありがとうございました。

海南ライオンズクラブ献血奉仕活動に厚生労働大臣感謝状  
活動日：2009年7月28日

335-B-9R-2Z / 海南ライオンズクラブ



社会福祉献血委員会委員長 / 中本正徳

2009年7月28日(火)和歌山県庁3F知事室に於いて、厚生労働大臣表彰状・感謝状並びに知事感謝状贈呈式がありました。

海南ライオンズクラブは長年の献血奉仕活動が認められ、今回厚生労働大臣感謝状が贈られました。

贈呈式には海南ライオンズクラブ会長坂井秀雄が出席し、知事と懇談、また記念撮影を行いました。

当日、厚生労働大臣表彰状は1団体、厚生労働大臣感謝状は5団体にまた、知事感謝状は13団体に贈られました。

献血奉仕活動

活動日：2009年6月30日

332-D-2R-2Z / 国見ライオンズクラブ



事務局 / 大友

6月30日(火)、あいにくの雨の中、毎年恒例になっております、町の献血事業に参加して参りました。

毎年、当クラブより献血の謝礼として卵を寄贈しておりましたが、昨年度は110パック寄贈したにも関わらず、卵が足りないくらい献血される方が多かったという事で、今年は120パックを寄贈致しました。

当クラブの会長を筆頭に、寄贈の卵が全て無くなるくらい沢山の皆様からのあたたかいお気持ちを頂きました。

### 第3回献血奉仕活動

活動日：2009年5月16日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



副幹事 / L皆川 正孝

今期最後のアクティビティである「第3回献血奉仕活動」を5月16日(土)に実施致しました。前日の天気予報では雨マーク、最悪の状況を想定しつつ当日は曇り空ではあったもののなんとか雨にはならず、無事終わることが出来ました。

東京昭島ライオンズクラブに於ける献血奉仕活動は、クラブ奉仕の中でも特に重点を置いている活動で、年3回昭島駅前で行っております。

特に、今年の「第1回献血奉仕活動」はライオンズ・デー(11月8日)ということもあり、近隣のブラザー・クラブをはじめキャビネット役員の皆様にも参加協力を頂き、幸先の良いスタートを切ることが出来ました。

今回の第3回献血活動を通じ、献血も大分一般の皆様に着(リピーター)したな、と感じました。それは、われわれメンバーやレディーの受付より、献血カードをすでに取得し、直接パソコンでのデータ受付が多くなったということです。この状況を見たとき、日本赤十字社は勿論、われわれライオンズクラブ全体のアクティビティの成果も計り知れない大きなものがあるはずだと感じました。

今回の献血実施は、200mL献血:20名、400mL献血:40名、採血出来ず:18名、という結果でした。

今まさに世界では「新型インフルエンザ」の流行の中、ライオンズクラブに於いても、これからの献血活動に対してどう向き合うべきかを検討する時代が来ているような気がした今回の献血奉仕活動でした。

### 献血奉仕事業

活動日：2009年5月11日

330-B-9R-2Z / 横須賀衣笠ライオンズクラブ



会長 / 山田宣治

風薫る5月。爽やかな天候の下、当クラブ恒例の献血奉仕事業を行いました。

日本赤十字・衣笠献血奉仕団の方々には毎回ご協力をして頂き、地域が一体となった奉仕活動として盛り上げて頂いております。

また、今回の献血奉仕活動では、『腎・アイバンク』の啓蒙活動も合わせて行い、チラシや申込書の配布も行いました。

短い時間ではありましたが、地元の方々のご協力により、53名(19,800ml)の温かいお気持ちを頂きました。

## 第2回献血奉仕活動

活動日：2009年2月14日～2009年2月14

日

330-A-13R-1Z / 東京昭島ライオンズクラブ



副幹事 / 皆川 正孝

東京昭島ライオンズクラブ恒例の献血奉仕活動を2月14日(土)に実施致しました。今回はライオンズ・デーのイベントの一環として11月8日(土)に行い、今期2回目となります。

前日の天気予報では気温は若干上がるものの雨が降る一日との予報でしたが、一転、好天気に恵まれました。日中は気温もぐんぐんと上がり、まだ冬のはずが汗ばむ程の初夏を思わせる一日となりました。

花粉症のせいか、通行人の多くの方がマスクをしている状況の中での献血活動となりました。花粉症ということは当然ながら薬を服用している人も多く、この状況が献血にどの位の影響を及ぼすか不安の中で奉仕活動を開始しました。実際には、初夏の陽気で人出が多かったのか、前回よりも多く献血頂くことが出来ました。献血申し込み者数79人、採血者数58人でした。

次回は5月23日(土)に今期最後の献血奉仕活動をする予定となっております。この記事を読まれた方で当日昭島方面へ来られる予定の皆様、ぜひお立ち寄り下さい。

第34回中信地区小学校管楽器交歓演奏会へ協賛金、及び三献運動啓発活動の実施

活動日：2008年11月29日～2008年11月30日



334-E-3R-1Z / 松本中央ライオンズクラブ

PR委員長 / 高梨 英明

2008年11月29日(土)と30日(日)の2日間にわたり、長野県松本文化会館で開催された、第34回中信地区小学校管楽器交歓演奏会への協賛金として、例年に引き続き10万円を贈呈しました。会場では当クラブの有賀会長と、大蔵第一副会長が協賛団体としてのあいさつを行いました。また、両日には3回に分けて大勢のメンバーが会場に集まり、三献運動アピールのためのパンフレット、アイバンク・ドナーカードや献血呼び掛けのティッシュなどを約600部配布する啓発活動を実施しました。

献血受付、骨髓バンクドナー登録会

活動日：2008年11月8日

334-B-2R-2Z / 美濃加茂あじさいライオンズクラブ



会長 / 山田茂人

平成20年11月8日(土)、岐阜県美濃加茂市「2008みのかも産業祭」の会場において、美濃加茂あじさいライオンズクラブ会員28人が参加して、献血受付、骨髓バンク・ドナー登録会を実施しました。当日は天候が悪いにもかかわらず、チラシやポケットティッシュの配布によるPRと会員の呼びかけによって、多くの方に協力して頂きました。献血者107人(400ml 92人、200ml 15人)、骨髓ドナー登録者9人になりました。この事業は例年行っているもので、9月には「骨髓バンク推進全国大会」にて感謝状を頂きました。今後とも継続して実施したいと考えております。

合同献血奉仕

活動日：2008年11月16日

335-D-1R-3Z / 福崎サルビアライオンズクラブ



クラブPR・ITライオンズ情報委員長 / 小幡敬子

11月16日(日)10:00～16:00、ショッピングセンター「ライフ」福崎店において、スポンサー・クラブの福崎LCと合同で献血奉仕事業を行いました。

天気予報では、午前中雨。午後くもり。

「あ～あ・・・。」と思いきや、一滴の雨も降らず、大勢の方々に献血をして頂くことが出来ました。

<http://www.h3.dion.ne.jp/~salvia/syokai/katudo/kenketu/life/life.htm>

宇土 LC 主催 献血

活動日：2008年10月6日

337-D-1R-9Z / 宇土ライオンズクラブ



PR 広報委員長 / L. 宗像哲夫

宇土ライオンズは、年に2回宇土市で、1回富合町で献血を開催しています。ライオンズ主催は、献血来訪者全員へタオルを配布しています。

献血が400CCのみの受付ということで、体重等で出来ない方も多かったようです。会員は、年齢、薬の服用等で献血出来ない人も、朝から夕方まで受付で頑張っています。

知り合いが多いので、市役所に見えた方を呼び止めて(つかまえて)、献血協力をお願いしていました。今回は、献血受付者76名、献血者57名でした。昨年より少なかったようです。

写真の 受付会員 L. 三村、L. 磯部、L. 鏡

// 献血会員 L. 中村、L. 花田

献血奉仕事業

活動日：2008年10月14日～2008年10月14日

330-B-9R-2Z / 横須賀衣笠ライオンズクラブ



会長 / 山田宣治

年2回の恒例となっている献血奉仕事業を、赤十字団のご協力の下、横須賀市の衣笠行政センターで行いました。

当日は悪天候にも係わらず、71名の方々の受付があり、内53名の方々のご協力を頂きました。

愛の献血市民運動

活動日：2008年9月26日

335-A-2R-2Z / 神戸湊川ライオンズクラブ



事務局 / 中西敦子

毎年9月最終金曜日に愛の献血市民運動を行っています。すっかりリピーターも定着しているのですが、今年は朝から雷と大雨。警報まで出る始末で、テントの下は水浸しになり、準備が出来るかどうかさえ危ぶまれました。幸い、10時の献血開始前に雨は上がったものの、天気の悪さが災いして出足が悪く、2時間で50人程、謝礼だけが山積みで残っている状態でした。

現場は大きな市場に近いので、謝礼は主婦が喜びそうな、バナナ、カップラーメン、タマゴ10個など。ところが、今年はバナナダイエットの影響でバナナが手に入らず困りました。

写真上は、水を掃除する保健委員長、中は今年の謝礼(バナナ、タマゴ、お菓子、ミニカップラーメン)。下は、午前中、人が来ないので山積みだったバナナです(夕方にはこれがほとんどなくなりました)。

最終結果は200ml16人、400ml191人で39,600mlでした。

献血

活動日：2008年9月19日

333-C-6R-1Z / 成田



会員委員長 / 大野卓正

市役所前で献血活動をしました。

謝礼として採血者に食パン1本(3斤)を用意、終了時には270本の食パンがなくなりました。

68,600mlの血液の提供ありがとうございました。

宇土LC主催 献血

活動日：2008年10月6日

337-D-1R-9Z / 宇土ライオンズクラブ



PR広報委員長 / L.宗像哲夫

宇土ライオンズは、年に2回宇土市で、1回富合町で献血を開催しています。ライオンズ主催は、献血来訪者全員へタオルを配布しています。

献血が 400CC のみの受付ということで、体重等で出来ない方も多かったようです。会員は、年齢、薬の服用等で献血出来ない人も、朝から夕方まで受付で頑張っています。

知り合いが多いので、市役所に見えた方を呼び止めて(つかまえて)、献血協力をお願いしていました。今回は、献血受付者 76 名、献血者 57 名でした。昨年より少なかったようです。

写真の 受付会員 L. 三村、L. 磯部、L. 鏡

// 献血会員 L. 中村、L. 花田

### 献血奉仕事業

活動日：2008 年 10 月 14 日 ～ 2008 年 10 月 14 日

330-B-9R-2Z / 横須賀衣笠ライオンズクラブ



会長 / 山田宣治

年 2 回の恒例となっている献血奉仕事業を、赤十字団のご協力の下、横須賀市の衣笠行政センターで行いました。

当日は悪天候にも係わらず、71 名の方々の受付があり、内 53 名の方々のご協力を頂きました。

### 愛の献血市民運動

活動日：2008 年 9 月 26 日

335-A-2R-2Z / 神戸湊川ライオンズクラブ



事務局 / 中西敦子

毎年 9 月最終金曜日に愛の献血市民運動を行っています。すっかりリピーターも定着しているのですが、今年は朝から雷と大雨。警報まで出る始末で、テントの下は水浸しになり、準備が出来るかどうかさえ危ぶまれました。幸い、10 時の献血開始前に雨は上がったものの、天気の悪さが災いして出足が悪く、2 時間で 50 人程、謝礼だけが山積みで残っている状態でした。

現場は大きな市場に近いので、謝礼は主婦が喜びそうな、バナナ、カップラーメン、タマゴ 10 個など。ところが、今年はバナナダイエットの影響でバナナが手に入らず困りました。

写真上は、水を掃除する保健委員長、中は今年の謝礼(バナナ、タマゴ、お菓子、ミニカップラーメン)。下は、午前中、人が来ないので山積みだったバナナです(タ

方にはこれがほとんどなくなりました)。

最終結果は 200ml16 人、 400ml91 人で 39,600ml でした。

献血

活動日：2008 年 9 月 19 日

333-C-6R-1Z / 成田



会員委員長 / 大野卓正

市役所前で献血活動をしました。

謝礼として採血者に食パン 1 本 (3 斤) を用意、

終了時には 270 本の食パンがなくなりました。

68,600ml の血液の提供ありがとうございました。

pick up

ピックアップ

献血

# 少子高齢化で懸念される輸血用血液の不足。献血推進活動のこれから

現在のところ、輸血に必要な血液製剤はすべて献血でまかなわれているものの、少子高齢化の影響を受け、将来、血液不足に陥ることが懸念されている。輸血を必要とする高齢者が増える一方で、献血をする若者が減っているという。

日本の年金制度と同じように、若い世代が、多くの高齢者を支えなければならず、破綻しかねないというのは言い過ぎだろうか。何か有効な対策はあるのだろうか。血液を人工的に作ることが出来ない以上、献血に協力してくれる人を増やす他に方法はない。

(取材／渡辺朋和)

安全な血液の供給のため、日本で献血の普及が始まった当初から、全国のライオンズクラブは献血推進に力を注いできた。1990年には、前年に設置された昭和天皇記念血液事業基金による昭和天皇記念献血推進賞を受賞している。

少子高齢化時代を迎え、今後どのような献血推進活動が求められているか、日本赤十字社に取材した。

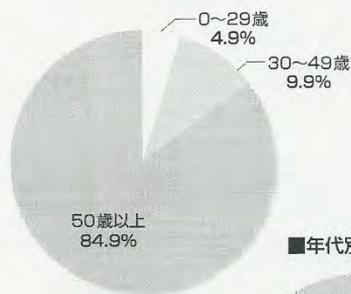
## 小中学校からの献血教育で関心を高める

日本赤十字社（日赤）血液事業本部 献血推進課の菅原拓男課長は、献血量と献血者数の推移をまとめたグラフを示しながら、「表面的には需要に見合った血液の確保が出来ているのですが、献血者数は減少しています。400ミリットル献血や成分献血が増え、一人



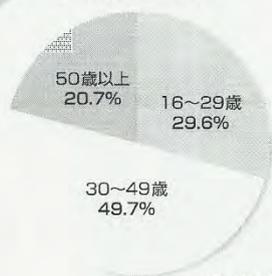
pick up

■年代別輸血状況



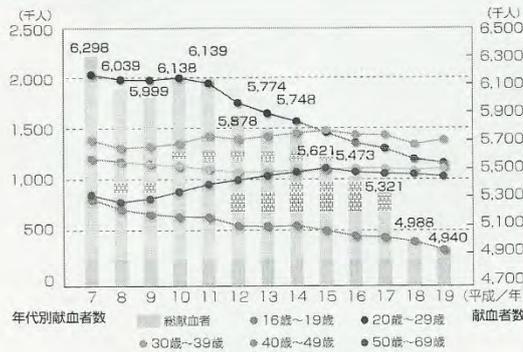
(2007年東京都健康局調べ)

■年代別献血者数



(2007年 全国)

■献血者数の推移



あたりの献血量が増えたことで需要を賄えているのが実態です」と説明する。

東京都の調べでは、輸血を必要とした人の85%が50歳以上の中高年。今後、高齢者が増えることは必至で、輸血用血液製剤の需要は増えることはあっても、減ることはない。

国立社会保障・人口問題研究所が発表する人口推計では、2007年に65歳以上の高齢者は10人に2人だったが、30年には3人、55年には4人になるとしている。そうならば、いや応なしに人口比率の少ない若い世代が、多くの高齢者を支えなければならぬことが分かるが、加えて献血者が減少していけば、救命医療に重大な支障を来すことになりかねない。

「特に10代、20代の若い人たちの献血が少なくなっているのが心配」と菅原さんは指摘する。

厚生労働省は、将来にわたり安定して血液製剤を確保するために、08年度に献血推進のあり方に関する検討会を設置し、今後の献血推進方策について、さまざまな角度で検討し、その結果が同検討委員会報告書として提言された。

同検討会では、全国の16、29歳の若者を対象に、06年と09年に献血に関する意識調査を行い、献血への関心を聞いている。その結果、関心ありと回答



東京昭島ライオンズによる献血推進活動

したのは、06年には52.2%で、かうじて半数を上回ったが、09年の調査では45.8%に減少し、無関心派の方が多くなっていました。

このまま献血に無関心な若者が増えれば、どうなるか。答えは明らかだ。

### 小中学校からの献血教育で関心を高める

「若者の献血離れを、菅原さんは「学校での集団献血が減り、経験していない人が増えたことにも原因がある」と考えている。意識調査でも、献血をしている人の多くは20歳までに経験があり、高校時代に経験がある人は回数が多くなる傾向が見られた。

菅原さんの言う通り、集団献血がなくなることが献血離れの原因の一つとなっているとすれば、逆に高校生の時に経験させることで、若い世代の関心を高めることが出来るのではないだろうか。献血推進のあり方に関する検討会でも、高校生の意識を高めるための方策が議論されている。

高等学校の学習指導要領解説には、保健体育の時間で献血制度について適宜触れるようにすることが盛り込まれ、2013年、14年頃には、教科書でも、献血制度に触れられる予定である。

日赤でも、同検討会での討議を踏ま

え、学校での「献血出前講座」などの体験学習を既に一部で実施している。

「献血が出来ない小中学生の頃から、血液の大切さや献血制度について啓発教育をしていくことが、高校での献血につながると思っています。ライオンズクラブでは学校と連携して薬物乱用防止教育に取り組みされているようすが、献血は命や健康を守るという点で、通じる場所があると思います。薬物乱用防止教育と連携しながら、献血の啓発を推進していくことが出来れば効果的ではないでしょうか」（菅原さん）

### 自分も助けられる、という気持ち

若い世代への啓発活動で献血者を増やしたとしても、避けられない問題もある。少子化がそのまま進めば若い世代の絶対的な人口は減る。一人ひとりの献血回数を増やしていく取り組みも必要だ。

献血推進のあり方に関する検討会では、400ミリットル全血献血が出来ると下限年齢を引き下げと、需要の多い血小板製剤を確保するため、血小板成分献血が出来る上限年齢を引き上げることで、幅広い年齢層から血液を確保することが検討されている。現在、平均的な献血回数は年に1.7回だが、

## pick up

### ■疾病別輸血状況



(2007年東京都健康局調べ)

日本赤十字社では、これを2回以上に増やすことで、今後増加することが予想される輸血用血液製剤の需要に対応していきたいという。

例えば、08年4月から複数回献血クラブ会員に対して、糖尿病予防に役立つグリコアルブミン検査を加え、採血時の検査データを携帯電話で見て健康管理に役立てられるサービスの提供を始めた。これによって会員登録者数を増やし定期的な献血を促そうという取り組みだ。加えて採血後のケアが重要と菅原さんは言う。

「採血後の休憩中に、献血した血液がどれだけ役に立っているのか、パンフレットなどで情報提供を行っています。献血が社会の役に立っていると分かれば、回数も増えと期待しています」

調査でも、献血をした後、パンフレットを見て社会の役に立っていることを知り、献血回数を増やすことに前向き

きになった人が8割を超えている(献血推進のあり方に関する検討会の資料より)。では実際に、献血はどこまで役に立っているのだろうか。

疾病別輸血状況を見ると、輸血の約半数が、がんの手術である。今や日本人の10人に6人が、がんで亡くなっている。将来、自分も献血によって命を助けられるかもしれない、という意識を持つてもらえれば、自然に献血への関心が高まるのではない。

日頃から献血推進のボランティアにかかわっている方は驚くかもしれないが、献血や血液製剤のことを十分に理解している人は少ない。

血液製剤の中でも、白血病やがんなどの疾患で使われる血小板製剤の需要は特に高いため、特定の成分だけを取り出す成分献血を推進している。しかし献血者の中にも、なぜ成分献血を勧めているのか理解している人は少ないようだ(献血推進のあり方に関する検討会資料では献血の種類について認知している人は4割にとどまっている)。

成分献血は血小板や血漿といった特定の成分を多く確保することが出来るメリットがある。採血時間は長くなるものの、回復に時間がかかる赤血球を体内に戻すため、献血者の身体への負担は少ない。献血者にも、患者にとっ

### 企業とパートナーとなつて献血を推進

でもメリットがある献血方法なのだ。こうしたきめ細かな情報提供をすることも、献血への関心を高めることが出来るのではないだろうか。

献血をサポートする側にも変化がある。献血推進に長い実績を持つライオンズだが、近年は個人情報保護の観点から献血の受付業務にかかれなくなり、以前ほどやりがいを感じなくなつたという声を聞くことがある。しかし献血した人への情報提供、小中高校生の献血啓発活動など、献血推進ボランティアが必要となる場面は増えている。

最近では社会貢献活動に積極的な企業も増えているが、その一環として社員の集団献血を行う例もある。ライオンズの活動としては、企業への働き掛けも有効だろう。日赤では安定した血液確保のため、献血サポーター制度を設けている。集団献血に協力した企業には献血サポーターのロゴマークを発行し、企業のパンフレットなどに掲載して、社会貢献活動をアピールしてもらおうという取り組みだ。

企業を巻き込んだこうした活動に、既にも実績を挙げているクラブもある。本誌09年9月号「獅子吼」欄で紹介し

ているが、東京馬場先門ライオンズクラブは、丸の内国際ビルやカシオ計算機(株)などで、企業へ献血協力の呼び掛けを行っている。丸の内国際ビルでは(株)ぐるなび、(株)NKB、(株)日本ベア開基協会、(株)ニスク、金魚園などの企業に呼び掛け、社員に献血をお願いした。

カシオ計算機(株)本社では、同社の会議室に採血ベッドを設置して、総務部を巻き込んで、社員に献血の協力を訴えた。同社はパラリンピックや障害者支援を含め、献血だけでなく、いろいろな分野で社会貢献活動に取り組んでいる。が、こうした積極的な企業もあるものの、残念ながら献血サポーターに登録している企業は、まだまだ少ない。ライオンズとして、積極的に企業に働きかけていくことも出来るのではないだろうか。

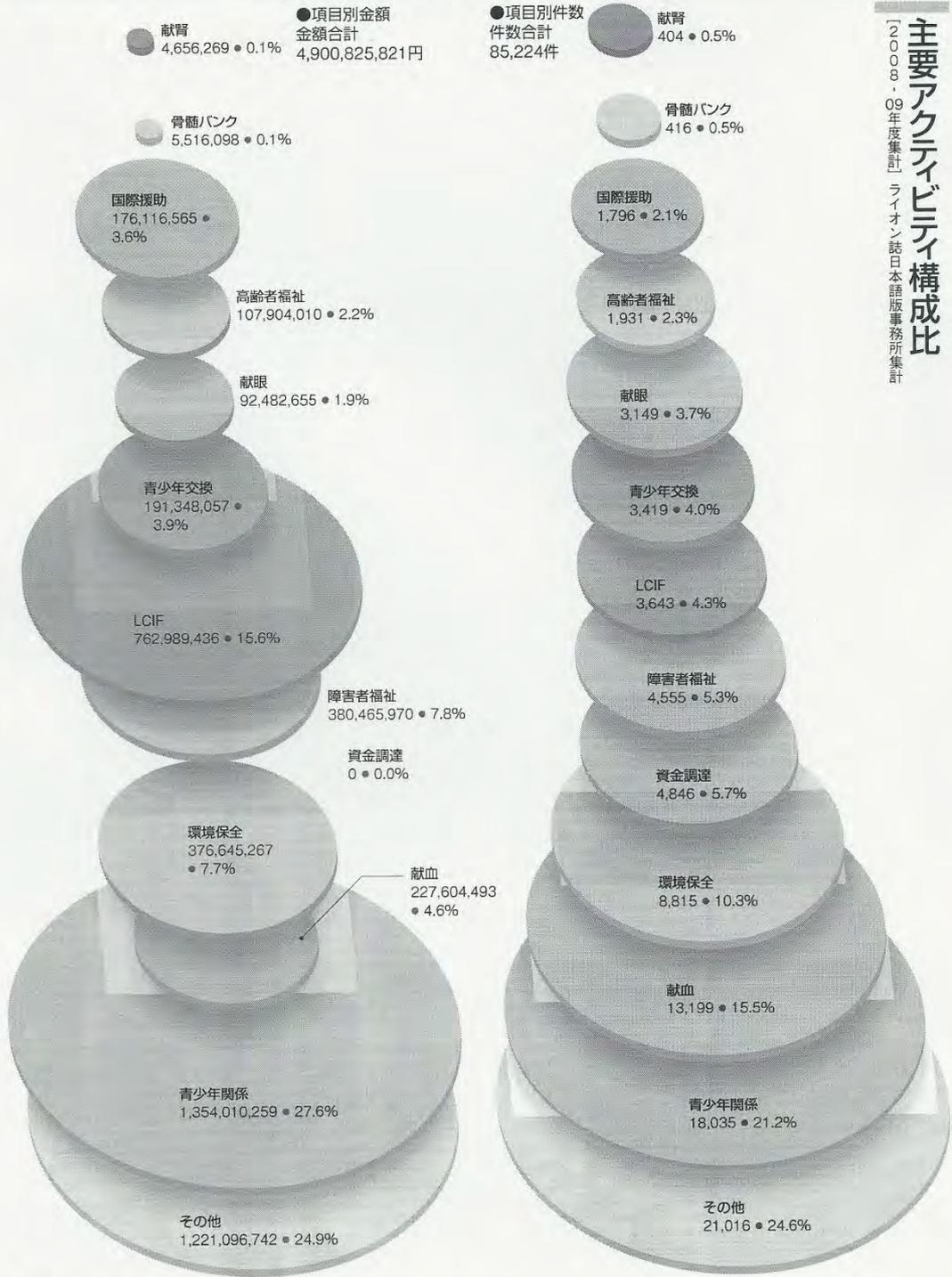
日赤では献血について理解を深めるため、全国のライオンズを対象にこれまで2回、北海道千歳市にある血液分画センターを見学するなど献血推進会議を開催している。今年の開催予定は決まっていないが、「今後もライオンズクラブの方々に向けて、献血推進ボランティアに役立つイベントを継続していきたい」と菅原さん。

ライオンズの献血推進活動に、今後大きな期待が寄せられている。



ライオンズクラブ統計

統計Ⅲ  
アクティビティ



主要アクティビティ構成比  
2008・09年度集計  
ライオン誌日本語版事務所集計

別子銅山子ども探検隊



新居浜ひうちライオンズクラブ(横井文明会長/39人)は2006年度に結成10周年記念事業として、愛媛県立新居浜南高等学校情報科学部の生徒たちを支援して、「近代化産業遺産ガイドブック」を作成した。この縁から、クラブが市教育委員会と共催で取り組む「別子銅山子ども探検隊」で、同校生徒にガイド役を務めてもらっている。事業の目的は、児童が別子銅山の現地学習を通じて先人の遺業を知り地域を愛する心を持つこと、登山により忍耐力を育み、友達との協力から仲間意識連帯感を培うことにある。

今年10月24、25日に実施した。参加者は市内の小学校高学年児童34人、

高校生8人、それに教育関係者とライオンズ会員を含め総勢61人。日浦登山口から紅葉を愛でつつ登り始めると、登山道にはさまざまな別子銅山の史跡があり、高校生は日頃の学習成果を発揮し真剣に説明してくれた。子どもたちに根気よく丁寧に教える姿に感動を覚えた。最初の坑道、歓喜坑で昼食を取り、銅山峰の頂上に到着。あいにくうすすらとガスがかかった状況だったが、山頂からの展望はすばらしい。下りは険しく、子どもたちは何度も尻もちをつきながら、何とか銅山の里少年自然の家に着く。夕食には皆で協力してカレーライスを作り舌鼓を打った。夕食後は薄い銅板の折り紙で鶴作り。

(青少年委員長 塩崎卓)

年間12回の献血会



佐野中央ライオンズクラブ(恩田重男会長/34人)のアクティビティの一つに、毎月第一火曜日に実施している献血会がある。献血はポピュラーな奉仕活動だが、単独で年間12回開催しているクラブは多くはないだろう。

会場には佐野市内にあるイオン佐野新都市店にご協力頂き、正面玄関前のお客様用駐車スペース10台分を借りて、献血車2台を配車する。献血会の当日は、早起きして駐車スペースの場所取りから始まる。献血会専用クラブ・テ

ントと看板を設置、赤十字献血センターの機器設置に協力した後は、PR用看板を片手に来店者に協力を呼び掛ける。しかし、平日の昼間ということ、来店者の少ない午前や天候が悪い時間帯、なかなか協力者が集まらないこともある。近年では広報活動にも力を入れ、PR用ポスターを毎年作り市役所等の公共施設に掲示したり、佐野市広報等に案内を掲載してもらっている。そのかいあって市民にも徐々に浸透し

(幹事/山本正明)

神奈川県・横浜ライオンズ倶楽部  
「ヨコハマ関外ジャジー・フェス」開催



世間では大通り公園といえば札幌と思われ、今年開港150周年を迎えた横浜にも、昭和53年に開園した全長1.2キロ、幅30メートルの横浜大通り公園がある。

その公園入口近くロダンの広場で10月24日、横浜ライオンズ倶楽部(25人)は、新井宏次第一副会長を実行委員長に、「第1回ヨコハマ関外ジャジー・フェス」を主催した。ジャズ、ラテン、ブルースと3カ所でブースを設けての演奏の他、地元アーティスト、写真家らの作品展示、もちろん奉仕活動の謝アイメイト協会への募金活動として盲導

犬との体験歩行による活動も、時折降る小雨をものともせずに行われたのである。

当クラブが今期実施したアクティビティはこれで3回目。1回目は8月に行われた横浜開港150周年での事業。横浜市の要請を受け、大通り公園納涼ビアガーデン祭の開場前に、公園内の清掃と打ち水をした。メンバーが一生懸命に活動する姿を見て近隣の方々が感心され、「こんなことまでされているのですか?」と声を掛けてくださった。行政と住民に対するパイプ役が果たせ、かつ広報も出来たと思ってい

る。

2回目は10月4日の合同奉仕デー。第1回第1部の有志クラブが集まり、横浜市の水源でもある山梨県の道志村の山林に入り、インストラクターの指示の下、間伐作業を行った。参加したメンバーは、「体験学習をしながらの奉仕活動で大変意義があり、環境問題について勉強出来た」と述べている。

これからまだ、二つのアクティビティがある。当ゾーン内のトップ・クラブという自覚を持って、更なる奉仕活動に努めていきたい。

(会長)金子幸恵

大阪西成ライオンズ倶楽部  
ひったくり防止カバーを配布

大阪西成ライオンズ倶楽部(26人)は、自転車の前カゴに付ける「ひったくり防止カバー」を千枚作成。毎年春と秋に行っている献血アクティビティの会場で500枚ずつ配布した。

実は当初は防犯カメラの設置を検討していた。大阪西成署に相談したところ、設置場所の選定や関西電力等の許可などに時間が掛かり、それよりもひったくり防止カバーの配布が早急に必要だということを知った。大阪府にはひったくり発生件数が33年連続全国ワースト1という不名誉な記録がある。そこで方向転換となった。



10月20日に西成区役所前で献血アクティビティを実施。ここでひったくり

カバーを配れば、相互に効果向上が見込めるだろう(実際、今回の献血は例年の2倍の採血量だった)。ライオンズだけでは手が足りないもので、西成区家庭人バレーボール連盟、区役所職員、西成警察署員と、地域一丸となって、「ひったくりに気をつけて」と呼び掛け配布した。

自転車の前カゴからのひったくりは多発している犯罪だが、ネットを取り付けるだけで防止に大いに効果があるという。地域の防犯に役立ちたい。全住民にカバーが行き渡るまで続けるつもりである。

(会長)古本隆一

千葉県・南房総ライオンズクラブ  
完全ペーパーレス・クラブ運営



南房総ライオンズクラブ（20人）が結成されたのは3年前。クラブ運営をスリム化し限られた予算を有効に使うために、事務局と職員は持たず、事務局機能を備えたホームページをインターネット上に置くことにした。会則や入会申込書、会計報告書など、あらゆる書類はここに保管され、会員はこれらを自由に利用出来る。幹事と会員間の連絡もホームページ上。例会や活動の出欠席は会員が自ら書き込み、全体の出欠状況を全員が確認出来る。

1. 例会等の案内の送付は不要
2. 会員自らが出欠簿に○×を記入
3. 会費の入金状況を全員が確認出来る
4. 例会配布用の幹事報告書は不要
5. クラブ資料共有化で各自の保管不要
6. 事務局及び職員なしで運営

7. 事務局費、通信費、印刷費ゼロ
  8. 事業費に多く予算配分が出来る
- こうした取り組みにより幹事の負担が大幅に軽減し、次期幹事の任命がしやすくなった。インターネットが苦手な人も、例会ごとにホームページを見ることで、自然に無理なく慣れていく。会員は例会出欠を記入するためにホームページを開くので、必然的に情報が伝達される。全員で取り組むことで会員の結束力が増す、など効果は絶大だ。当然環境面でもエコロジカルで、時代に即したクラブ運営となった。
- （会長／原田利昭）

青森あすなろライオンズクラブ  
献血協力者2万人達成



28年前、ある会員が東京に出張時、上野駅前で活気あふれる献血アクティビティを目撃した。これは!!と早速聞いたところ、東京上野ライオンズクラブで毎月活動中とのこと。ぜひ我がクラブもと提案、承認された。

記念すべき1982年。新町の歩行者天国で第1回の呼び掛けをした。初年度は3回で計519人の採血者を数えた。2年目は5回で978人。8年目に5千人達成。それから9年後に1万人。更に4年後の21年目に1万5千人目となった近くにお住まいの鹿内清江さん（60）は、「元気なうちに困っ

た人の役に立てれば」と笑顔で語ってくださった。

そして遂に28年目の今年、2月28日に2万人達成。第190回目献血活動での快挙!!

記念すべき2万人目の駒木正紀さんは43回目の献血だという。青森あすなろライオンズクラブ（16人）の前田仁会長から認定証と記念品を贈呈した。

04年には厚生労働大臣から第44回献血運動推進全国大会において功績を評価され表彰された。地区のグッドスタンディング大賞及び金賞・銅賞も計7回受賞しており、先輩ライオンの活躍

を物語っている。

青森県知事表彰と感謝状は95年に贈られて以来、ほぼ1年おきに受賞。記念アクティビティとして15周年には献血センターに献血補助車、20周年には血液成分分離装置を、25周年には献血推進広報車、そして30周年には広報用ブルゾンを贈呈した。

現在クラブは会員数が減少、会員増強の焦燥に駆られつつ、先輩ライオンの功績を無にせぬよう、会員一丸となってがんばっている。献血者3万人に向け、新たな気持ちで邁進していく。

（情報・PR委員長／出町時彦）

地元PTAと共に献血活動



天神祭と学園の神様で知られる「大阪天満宮」のおひざ元にある、日本一長いと言われる大阪天神橋商店街。1丁目から7丁目まで南北3kmに延び、最寄り駅が五つある。ただ長いだけでなく、商店街の至る所に歴史があり、今に伝わる名所がある。そしてそこから外れた街中にもまた、いろいろな面白い店や場所がある。

そんな雰囲気ある地域に事務局を構えるのが、我が大阪天神橋ライオンズ(太田明会長/22人)。商店街入り口で年6回の清掃・献血奉仕活動を行っている。

この献血について、地元市民の関心を高め協力者を増やしていくにはどうしたらよいか、クラブでは例会や理事会で何度も議題に取り上げてきた。そして「長く続けていく中で、少しずつ良いから伸びていくことが大切ではないか」と考えていた。

そこで、かねてからアクティビティを通して交流のある大阪市立堀川小学校と共に奉仕活動することが出来たらと学校側に申し出たところ、快いお返事を頂くことが出来た。同校は国際平和ポスター・コンテストに参加頂いている他、2007年のクラブ結成40周

年に「大阪天神橋ライオンズクラブ文庫」を設置して以来、本の寄贈を続けており、またPTAを対象とした人権擁護講演会の後援を請け負うなどしている。

09年11月から、献血活動にPTAの方々に参加頂いている。通行される知人、友人らにも声掛けをしてくださり、地元を良く知る強い味方を得てうれしい限りである。

地道ではあるが、これからも人とのつながりを大切に、地元の方々と共に歩んでいきたいと願っている。

(環境保全・献血奉仕委員長/久徳健三)

愛知県・豊田シニアライオンズ  
カブトムシを育てて子ども園に贈呈



本年度クラブ結成10周年を迎える豊田シニアライオンズ(光岡茂夫会長/32人)は、青少年健全育成、とりわけ幼稚園児、小学生児童の情操育成事業に積極的に取り組んでいる。

今や子どもたちにも人気のアクティビティとなったカブトムシ贈呈は、2001年から幼虫を採取してサナギを越年させ、3年目にようやく100つがいを用意するまでの即売会を行うことが出来た。とはいえ、ここからもまだ試行錯誤の連続で、奇形が生まれたり、孵化した雌雄の数が不確実だったり、毎日床替えを行いエサを与えるの

だが、数が増えてくると逃げてしまうものがあつたり……。さまざまな失敗を経験した結果、5年目に当たる92年度からは、幼稚園に対象をほぼり贈呈することに決めた。

カブトムシの育成は年間を通じての作業だが、全員で取り組むというよりは、どうしても担当者に骨折りが多く、93年度までは枯植猛、以降は築瀬守兄がその重責を担ってくれた。2人の共通点は住環境に恵まれていること、そして子どもとカブトムシが大好きなことである。

築瀬によると、2〜3月に畑の堆

肥の山からカブトムシの幼虫を掘り出し、採取。家の玄関に置いて面倒を見る。6月下旬から7月頃、だいたい幼虫180匹のうち100匹が成虫になつて出てくるという。この頃は心配でたまらないのだそうだ。

今年も7月12日、市内四つの子ども園に80匹を寄贈した。この時、子どもたちが去年のカブトムシから2匹の新しいカブトムシを育てたという話を聞いて、築瀬は感激していた。

これからも出来るだけ皆で協力してこの事業を続けていきたいと思う。

(幹事/夏目八洲彦)

大阪東淀ライオンズ倶楽部  
国際会長、来阪さる



昨年9月、吉田宏35・B地区ガバナ  
ーから、スクラッグス国際会長が来日  
されて、我がクラブのアクティビティ  
を視察されると連絡が入った。  
大阪東淀ライオンズ倶楽部（齊藤宗久会  
長／27人）は前年度、百余万円のLC  
IF交付金を申請して大阪市立視覚特  
別支援学校に視覚資材を寄贈していた。  
これが生徒たちの役に立っていること  
と、十数年来主催している卒業記念  
ボウリング大会を視察されたいとのこ  
とだったが、残念ながら後者は春に行  
うためお見せ出来ない。  
さて、当日の10月8日。我々は7時  
30分に登校。国際協会のビデオクルー  
も学校の撮影に入る。8時30分、スク  
ールバスで生徒たちが到着。校長先生

から、生徒たちは聴覚が敏感なので大  
きな声を掛けないよう注意があった。  
10時、会長夫妻の写真ブラカードを  
持ってお二人を迎える（ブラカードに  
は後にサインを頂いた）。小学部生徒  
から花束贈呈、中・高等部の生徒3人  
が一生懸命に英語で歓迎のあいさつを  
した。  
会長は、彼が暮らすノースカロライ  
ナ州のハツテラス岬にある世界一高い  
灯台が2世紀にわたり船を安全な港へ  
と導き、衛星システムが発達した現在  
も重要な役割を果たしているという話  
を挙げ、すばらしいスピーチをされた。  
校長室で、学校の歴史や当クラブと  
の交流について話をした後、生徒たち  
が視覚教材を使用している姿を視察さ

れた。  
小学部での点字の授業に大変興味を  
持たれ、熱心に生徒たちと話し込まれ  
たり、幼稚部では児童のダンスに足を  
止め一緒に踊られる場面もあった。理  
療科では鍼やあんまの授業を見学、短  
時間ではあるが施術を体験して頂いた。  
時間をオーバーし2時間程度の訪問と  
なった。  
会長の所期の目的は達せられたと思  
う。会長自身も地元でこのような組織  
に関与されているとのことだった。来  
阪の際には寄付金と時計2個を同校に  
寄贈頂いた。握手をした時の温もりを  
一生忘れない。  
国際理事始め役員の皆様ご苦労さま  
でした。（国際委員長／灰井正起）

奈良県・田原本ライオンズ倶楽部  
献血奉仕キャンペーン

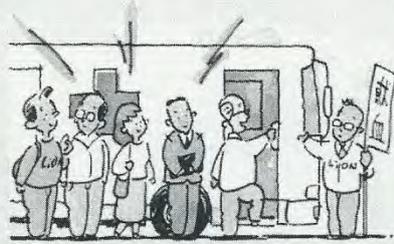


田原本ライオンズ倶楽部（森和俊会長／  
32人）は11月26日、田原本町庁舎及び  
奈良中央信用金庫本店の2カ所、こ  
の時期恒例となっている献血奉仕キャ  
ンペーンを行った。今回も町商工会青  
年部とタイアップして開催。献血奉仕  
は地味ながらもライオンズのPRも兼  
ねたアクティビティであり、地域社会  
と密接にかかわり人道的奉仕として大  
きな使命を持っている。  
当クラブの献血活動で一つ異色と言

えるのは、毎回田原本幼稚園年長組約  
70人を招請していることだ。子どもた  
ちが採血現場を見学し献血の大切さを  
理解してくれるよう、事業を始めた早  
い時期から実施している。献血委員会  
のメンバーが分かりやすく説明すると、  
園児たちは皆真剣にうなずきながらお  
となしく聞いている。「大人になつ  
たら私の血をあげて病気の人を助けて  
あげたい」という子もいた。  
当日の献血ドナーは合計164人、

うち400名採血が126人だった。  
当クラブでは高齢化と会員の減少で  
年々ドナーが減っているが、元気の会  
員は5人おり、中には連続20回以上の  
記録保持者も一人いる。  
冬場は血液が不足がちで日赤の関係  
者も苦労されているようだが、今回は  
事前にチラシや口コミ等で啓発活動を  
してきたかいあってますますの盛況だ  
った。町民の皆さんからも大変喜ばれ  
ている。（PR委員会）

山梨県・都留ライオンズクラブ  
山梨県の献血記録更新



都留ライオンズクラブ（久保田博会長／47人）は10月27日、都留市役所前駐車場で秋の献血を開催した。

朝8時30分集合、受付の準備を開始。9時に献血車4台が到着する頃には、9時30分からの受付開始にもかかわらず、10人程が並び始めた。晴天にも恵まれ盛況の兆しを感じて、メンバーは意気揚々、お土産（ティッシュ、マヨネーズ、カップラーメン、ジュース、入浴剤、歯磨き粉等）の袋詰め250個に取り組んだ。

切れ目もなく30〜40人が並び、午前中の受付者数は140人オーバー。皆

いつもと違った感触を感じていた。12時〜13時の休憩も交代制でフル稼働し、14時30分には予想来場者の250人に到達。お土産が足りなくなり、大急ぎで追加発注。15時30分の受付終了時には受付者数293人、採血者数248人になった。

予想以上の盛況で、一人当たり待ち時間と採血で1時間から2時間半も掛かってしまい、何人かには事情を説明してお帰り頂くといい事態も発生した。何とも申し訳ない思いである。

最後の採血が終了したのが夕暮れの17時過ぎ。山梨県赤十字献血センター

の方々からは、「20年来、これほどの来場者は初めて」と、当クラブの機動力にお褒めの言葉を頂いた。

これで終わらないのが我がクラブ。反省会と称した打ち上げは、高級シャパンでの乾杯で大いに盛り上がった。達成感のある献血事業であったこと、赤沢克夫委員長を中心に市内企業に協力をお願いして歩いた成果が出たことを喜び合い、これからのライオンズ活動に生かすことを誓い合って散会となった。（会則・指導力育成副委員長／小俣政英）

千葉県・旭ライオンズクラブ  
旭市児童生徒科学作品展



9月4日、旭ライオンズクラブ（金谷修一会長／73人）と旭市教育委員会の共催で、第6回旭市児童生徒科学作品展を旭市海上公民館において開催した。

1市3町が合併されて6年になることから第6回となっているが、実際は32回を数える歴史ある作品展である。今年旭市内の小学校15校と中学校5校から、校内審査を経た優秀作品498点が出展され、来場者は2千人を超すにぎわいとなった。

募集のカテゴリーには、モーターや磁石などを使った科学的な工作を対象とした「工夫作品の部」と、自然の事

物・現象を科学的に探究し、論文にまとめる「科学論文の部」がある。中には、子どもだけでなく親子のきずなを深めながら「ひと夏の思い出」として制作されたようなものもあったが、そこは経験豊かな審査員の眼力で、厳しい審査が行われた。

本年度は当クラブの結成45周年を記念して、会長賞の他に45周年特別賞を設けた。これらと教育長賞、特選を含めた受賞作品7点が選ばれ、千葉県児童生徒・教職員科学作品展に出品された。

そしてこの県展の小学校科学論文の

部で、旭市飯岡小学校6年溝口紘大君の「砂浜の研究6 海風の研究」が見事、激励賞を受賞した。喜ばしい限りである。

ものづくりには、完成した時の何とも言えない達成感と充実感があり、これを身をもって知ることは、まさに青少年健全育成の目的にかなっていると思う。今後も子どもたちのものづくりの喜びを大切に育てることにより、第2のエジソン、アインシュタインが旭市から生まれることを夢見て、このアクティビティを継続していきたい。

（幹事／木内善博）



7月2日、藤沢中央ライオンズクラブ（18人）と藤沢グリーンライオンズクラブ（杉山博会長／34人）は共催で、慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスで献血奉仕活動を行った。同キャンパスでの実施は初めてのこと。

藤沢中央ライオンズクラブはこれまでに、やはり藤沢市内にある日本大学生物資源科学部キャンパスで献血活動を展開していた。今回、「他の大学でも出来

た皆さんの女性が手伝いに参加してくださった。バスケット部の女子高生3人組も手伝ってくれた。明るく屈託の無い笑顔を見ると、この子たちが居れば大丈夫と安心したものだ。地元・大船渡五葉ライオンズクラブの若寺沢正直や陸前高田ライオンズクラブの若小林巖も応援に駆け付けてくれ、初対面ながら旧知の友のように感じ、改めてラ



イオンズの絆を確認した。

私たちの活動は、地域の方々にとつてどんなものだったのだろうか。1回の食事が出来た、それだけではないと信じている。園児からお年寄りまでいろんな人と顔を合わせた。皆が「ありがとう」と言ってくれた。私たちの他にも炊き出しは多々あると思うが、被災者の方々が喜んでくれて、それが生きる力になってくれることを祈る。このボランティアは、被災地の人々の間にコミュニケーションを図り、相互理解を生む。そして日本各地の多くの人たちとのつながりを作っているのだ。一人じゃない、仲間がいる。助け合い、力を合わせて、この苦難を乗り越える「愛のくさり」なのだ。そう実感出来た5日間だった。（幹事／柏崎文昭）

るのではないか」ということになり、慶応大学へ話を持ち込んだところ快諾を得ることが出来た。そこで同じゾーンの藤沢グリーンライオンズクラブにも声を掛け、合同での実施となった。

当日はキャンパス内では七夕祭が開催されており、多くの学生でにぎわっていた。参加したメンバーは自身も献

血した他、うだるような暑さの中、汗を拭いながら、「浴衣を着る前に献血はどうですか」と学生に呼び掛けた。

結果、400cc献血で42人の学生に協力してもらったことが出来た。

これからも学生たちにも協力してもらえる機会を提供し、若い血液を集めるだけでなく、献血への啓発を行ってきたい。（藤沢中央ライオンズクラブ会長／吉田泰之）

東京シティライオンズクラブ（重信真一会長／23人）は6月9日、13日の5日間、岩手県大槌町、釜石市、陸前高田市、大船渡市、宮古市で炊き出しを行った。縁あって元大関の小錦さんのグループと協力し、50人近い大所帯。とにかく温かいものをたくさん食べて頂きたいという一心で現地に向かった。

3カ月前は明るい笑い声にあふれ、温かい暮らしがあっただろう地は、視界を遮るものが全く無く、音の無い異様な感覚だ。がれきの広がる廃墟となっている。

どんな言葉を掛ければいいのか。気が重い私たちに「おはようございます！」と明るく元気に声を掛けてくれた幼稚園の先生、お母さんや園児たち、逆に力をもらった。仮設住宅からは、